

令和3年度生徒指導サポート実践校 「特別活動の取組事例」

学校名	府中町立府中中学校	校長	小山 貴美	生徒指導主事	児玉 慎二
-----	-----------	----	-------	--------	-------

取組事例名	『文化祭における新たな取組』
-------	----------------

取組における育てたい資質・能力					
-----------------	--	--	--	--	--

人間関係形成		社会参画		自己実現	
他と関わる力	1	課題発見力	3	自ら行動する力	2

取組のねらい

文化活動や学習活動の成果を発表し、周囲からの評価を得ることによって自尊感情を育成し、より良く向上していこうとする意欲を高める機会とする。

取組の具体的内容	取組の創意工夫 『笑顔満載～power of smile 笑顔の力～』
----------	--

文化祭を行うにあたり、例年ならできるはずの合唱にコロナ禍で取り組むことが出来なくなった。運動会も中止になっており、多様な他者と関わり、協力し、集団としての所属感や達成感を味わう学校行事として代わる何かはないかと考え、手拍子、足拍子で音を出すボディパーカッションを行った。

初の試みで学級対抗ではなく学年全員で演奏を行うことにした。その中に、各学級のカラーを出せるように、各学級のパートを取り入れた。1、2年生は体育館で発表し、他学年はリモートで見学した。3年生のみグラウンドで演奏を行い、三年生の最後の文化祭の姿を全校生徒、保護者で見学した。力を合わせて、一つの事を創り出す過程は「他と関わる力」の相手意識を高めた。また、競い合う事ではなく、一人一人の個性を認めながら、よりよい合奏にしていくために、音楽に合わせて温かい関わり方が見られた。できないことをできないで終わるのではなく、「できなければ出来る事を考える」の自ら行動する姿勢で、新しい府中中学校の文化を作った。



学年で合わせて演奏しつつ、学級でのオリジナリティを発表する機会も織り交ぜた。

1年生は曲と曲との間にフォーメーションチェンジを行った。最後は府中中の頭文字であるFをみんなで作り、府中中への所属感を高めることができた。

2年生は音の強弱を全身で表現し、独自の表現方法を学級ごとによく考え、工夫することができた。

3年生はスタンドを活用した演奏を工夫し、吹奏楽部とのコラボレーションで力強い発表をし、最高学年としての姿を下級生に示すことができた。リーダーが思いを伝え、協働する意欲を高めていった。

『笑顔満載～power of smile 笑顔の力～』のスローガンのもと、できない事を悲観するのではなく、できる事に力いっぱいチャレンジし、笑顔を増やすことができた。

取組の成果と課題

学級で息を合わせて演奏することによって、学級での絆が深まった。また学級を越えて学年で演奏を行うことによって自己の役割を全うすることの責任感や、他と関わることでの達成感を味わうことができた。学級での創意工夫を行う際に、自分たちのカラーをいかにして表現するかを自分たちで考えたことによって、自ら行動する力をつけることができた。